



題字 井口 文章
再刊 第398号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2022

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：球技大会 MVP & 決勝戦の様子をお届け！
実行委員長が球大を振り返る
二面：とうきょう縦文の裏側を取材
部門委員が過ごした夏とは？

数々の熱戦を経て

秋季球技大会閉幕

大盛況の中、2日間わたる球技大会が閉幕した。今号では、白熱の決勝戦と MVP を特集する。実行委員長による大会の振り返りや、グラフィティも満載。あの熱戦を、もう一度。

男子バスケット 3J対3G

3J対3Gの決勝は混戦を極めた。3Gのボールから始まった第1クォーターは目まぐるしく戦況が変わっていたが、3Jのスリーポイントシュートが2回決まり、6対0となる。その後、3Jの猛攻が続き、8対0で終了。第2クォーターは開始後すぐに3Jが得点するも3Gが意地を見



良い経験ができたという

（編集部共同取材）
1ルの MVP に選ばれたのは乙津暖都さん(3J)。優勝の感想を「まず一安心です」と語る。春球大の際、3Jは男子バスケットボールで準優勝しており、自身が元バスケットボール部ということもあって、何としても優勝したかったという。そのため部活を引退した後もボールに触れることを意識していたそう。また「チームメイトからは有り余るものをもらいました。プレーの面でも他のメンバーに助けられた部分が多いと思います」と述べた。最後に球大の総括を「今回の球大でみんなと盛り上がるのができ、高校で初めてといえるような良い体験ができました」と語った。

男子バレー 3F対2H

3Fと2Hの決勝戦は終始白熱した試合だった。第1セット序盤、両者一歩も譲らな



励ましあったことが勝利につながったそう

委員長である自分も他人任せになってしまった点を挙げた。春季球技大会の開催に向けての心構えを聞くと「開会式、閉会式の実行委員長から大会全体を動かすことは大変なので、自分よりも周囲を優先して大会を良くするという心構えを持っておくことが大切だと思います」と話して

秋球大を振り返って

実行委員長が振り返る

秋季球技大会実行委員長の野地慶人さん(21)に話を聞いた。実行委員長になった理由を聞くと「これからの自分の生活に繋がられるような経験ができ、またより良い大会にしたいとも思ったからで



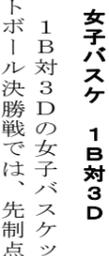
より良い大会を目指して

「す」と話す。実際に実行委員長になってみると、自分が思っていたよりも全体をまとめるなどの仕事が多く、準備期間も大会期間も忙しく感じたそう。球技大会期間中に心掛けたのは周りを見て小さいことでも気づけるようにすることだそう。反省点としては忙しいタイミングで人手が不足していたにも関わらず、実行

1・2年生も善戦

ドッジボール 1B対3C

1B対3Cの決勝戦は、前半が始まるとすぐに3Cが先制。しかしその後1Bの猛攻が始まり、3Cに次々とボールを当てて、3Cも意地を見せ反撃したが、1Bが3Cを全滅させて前半戦を制した。後半戦も1Bの鋭い投球が続く。先制した1Bは抜群のチームワークを見せて3Cを圧倒する。3Cも何度も1Bを狙っていき、そのボールも確実にキャッチする1B。最後は1Bが3Cの内野を全員外野に送り、春季大会に続く2連勝を果たした。



連覇の喜びを語る

女子ドッジボールの MVP に大島遥さん(1B)が選ばれた。大島さんが MVP に選ばれたのは春季大会に続き2回目。 MVP に選ばれた感想を「チームメイトのみんなに

サッカー 3I対3J

3I対3Jの試合の序盤は激しい攻防が繰り広げられた。シュートやヘディングの点の取り合いに。しかし2Hがブロックを2連続で成功させて7対3とすると、試合が動きだし、2Hはそのままリードを広げ第1セットを先取。第2セットは3Fが流れに乗る。途中、2Hも怒濤の追い上げを見せたが3Fは逃げきって終了。ついに決着がつく第3セット、2Hが粘りを見せるもラリーをコソコソと返した3Fが点を重ねて、見事10対3で勝利を収めた。



強い決意で臨んだという

岡本昂大さん(3F)。岡本さんは MVP に輝き「クラスメイトからムードメーカーと言われ、 MVP に選んでもらい

女子バスケット 1B対3D

1B対3Dの女子バスケットボール決勝戦では、先制点を決めるまで長い攻防が続いたが、3Dが3ポイントシュートを決めて先制点を奪った。1Bも負けじとシュートを決めるが、3Dも追加点を決めて突き放し、第1クォーターは5対4と3Dのリードで終了した。第2クォーターでは1Bが意地を見せ4点を取



クラスメイトへの感謝を述べる

期待に込めよう頑張ってくれてありがとうと伝えた。これからもよろしくと伝えたいです」と感謝を述べた。

女子バレー 2L対3I

2L対3Iの女子バレーボール決勝は両クラス円陣を組みながら始まった。先制点は3Iが取るも、その後調子を上げた3Iが反撃し、11対15で3Iが第1セットを取った。第2セットは2Lが先制。強烈なサーブで2Lが3Iを

球大絵巻

男子バスケット 3Jvs3G
女子ドッジ 1Bvs3C
男子サッカー 3Ivs3J
女子バスケット 3Ivs3D
男子バレー 3Fvs2H
女子バレー 2Lvs3I

チームの雰囲気良かったと語る



チームの雰囲気良かったと語る

むらさき草

最近、「銀の匙」という漫画を読んだ。この漫画は食べ物と命をテーマに取り扱っていて、「鋼の錬金術師」でお馴染みの荒川弘さんが手掛けた作品の1つだ。受験戦争から逃げた主人公が親と距離を置くために寮目当てで入学した北海道の農業高校で、動物たちが飼育しながら命と食べ物のありがたさを知って、成長していく物語だ。この物語の中で、主人公が授業の実習で飼育していた豚を屠畜場に送り、解体されて肉になった豚を主人公が泣きながら「いただきます」と食べるシーンが印象に残っている。「いただきます」という言葉は本来「いただく」という言葉からきていて、「いただく」は頭上に載せるという意味だ。「いただく」は中世における上位の者から物をもらう際に頭上に載せるような動作をしたことから、「いただく」に「もらう」という意味の謙譲用法が加わり、やがて上位の者からもらった物や神仏に供えた物を飲食する際にも、頭上に載せるような動作を行い、食事をしたことから、飲食をする意味が加わり「いただきます」となったそう。 (三省堂「新明解語源辞典」2011年出版) 現在日本の食品ロスは、年間522万トンとされている。この食品ロスは、事業系と家庭内系の2つに分けることができる。家庭内の食品ロスが生じる3つの主要因として「食べ残し」「直接廃棄」「過剰除去」がある。この3つの要因のうち、最も大きな割合を占めるのが「食べ残し」だ(消費者庁HP「食品ロス削減参考関係資料」2022年版)。私はこのことを再認識した。私自身は自分以外の誰かのおかげで食べ物を食べることで生きていくというのを忘れてはいけないと思う。しかし、日々の生活の中に不自由さを感じさせない現代社会で過ごす私たち、「誰かのおかげで満足に食べられること」への感謝が次第に薄れつつあると感じた。だから私は、他の命や他人の尊厳に敬意を込めて自分の生活が成り立っていることを心に留めたいと思う。そして他の生命や食事が満足して取れない人々、そして食材の生産に関わる全ての人を想って言う「いただきます」と。 (桂)

総文祭 特集

新聞部門生徒委員の活動を大公開!

8月1日(月)~3日(水)に行われた全国高等学校総合文化祭東京大会(以下:とうきょう総文2022)新聞部門の運営を錦城高校新聞委員会編集部の3年生5人と1年生2人が担当した。今回は、大会本番までの準備の様子や当日の仕事内容など、とうきょう総文の舞台裏をお届けする。(編集部共同取材)



大会1日目に配付された弁当

大会中は、参加者と同時に生徒委員にも昼食の弁当が配付された。8月1日(月)のテーマは『国際交流弁当』。フランス語で三日月を意味するというクロワッサンや、韓国料理のチヂミ、カルピ、そして、東京都発祥と言われている小松菜のおひたしなどが揃っており、名前の通り国際色豊かで贅沢なメニューを味わうことができた。(表)

その後、交流新聞作成で巡る全11コースの概要紹介が、パワーポイントを使って行われた。(廿)

リハーサル・準備
1日目の午前中から生徒交流会が始まるまでの時間で、とうきょう総文2022新聞部門で催される式典のリハーサルを講堂にて行われた。式典は生徒交流会、閉会式、閉会式の3つで、1日目の午後開始される生徒交流会を中心に、プロジェクトで扱うスライドやマイクの使い方、舞台転換などを入念に確認した。(廿)

生徒交流会運営
1日目の午後、生徒委員に属する新聞委員会編集部の3年生5人によって、生徒交流会が開かれた。交流会は司会を務める藤生穂乃花さん(3J)と野村美詞さん(3M)の挨拶から始まる。その後、交流会を運営する生徒委員が自己紹介。東京に関するクイズ「Quiz of TOKYO」では、参加者が積極的にクイズの答えを話し合う姿が見られた。



取材活動中の様子(写真はJコース)

取材引率
2日目の午後は、各コースに分かれて交流新聞作成のための取材活動を行った。生徒委員は参加生徒、顧問が時間内に取材場所に着くように声掛け、引率を行う。また、気温が高いため、取材場所に向かうまでの歩く時間や、外部取材による熱中症を防止するため、クールタオルが参加生徒、顧問、各コースの引率生徒に配られた。(廿)

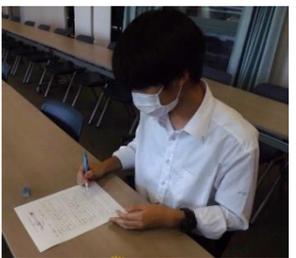


担当した班の手伝いやアドバイスをする

班別編集会議補助・リハーサル
3日目の午前中は、はじめに各担当コースの班別編集会議の補助に入った後、講堂にて閉会式のリハーサルを行った。徐々に緊張感が高まる中、内容や舞台転換の流れなどの最終確認、修正を行った。また、次年度開催地である鹿児島県の生徒委員長の鹿児島県立大島高校の有田結愛さんも参加し、閉会式内で行われる鹿児島県への引き継ぎの確認も行った。(表)

総文祭を終えての振り返り

8月19日(金)に錦城の会議室にてとうきょう総文2022新聞部門の反省会が行われた。部門委員の先生方と生徒委員が集まり、生徒委員足元から大会当日までの良かった点や、次年度の開催地である鹿児島県の実行委員に伝えておきたい点などを1人ひとり話していく。良かった点では、コロナ禍での開催にも関わらず感染者がほとんど出なかったことが1番に挙げられた。また、鹿児島大会に引き継ぎたい点では、大会までに開かれる部門委員会を多くすることや、現代に合わせた紙面作成をデータ上で行えるような体制を整えることなどが挙げられた。今回の振り返り会をもって、生徒委員の全過程を終了した。(廿)



大会の振り返りシートを書く様子

今回、総文祭の運営に携わりましたが、このような経験は珍しく、かなり緊張しました。かしま総文へのバトン渡しの力になれていれば幸いです。ボランティア 藤井遼平(1F)
総文祭に参加するのは初めてだったので分からないことも多かったですが、無事に終わることができてよかったです。一生に1度できるかならないような貴重な体験ができてとても嬉しかったです。ボランティア 山本葵(1H)
不安要素が多かったのですが、終わったときの達成感は何となく、価値のある経験でした。3日目に出来なかったのは残念でしたが、この先もこの経験を忘れないと思います。新聞部門委員 村松優貴(3E)
参加生徒として出場した昨年とは違った形で総文祭に関わることができてよかったです。大変なこともありましたが、準備も含めて楽しい総文祭でした!新聞部門委員 野村美詞(3M)
今回、総文祭の運営を務めさせてもらいました。多少のハプニングはあったものの、全国の方々に楽しんで頂ける大会を作ることができてとても貴重な経験になりました。新聞部門委員 赤坂聖弥(3J)
参加生徒として出場した昨年とは違った形で総文祭に関わることができてよかったです。大変なこともありましたが、準備も含めて楽しい総文祭でした!新聞部門委員 野村美詞(3M)
今回、総文祭の運営を務めさせてもらいました。多少のハプニングはあったものの、全国の方々に楽しんで頂ける大会を作ることができてとても貴重な経験になりました。新聞部門委員 赤坂聖弥(3J)
参加生徒として出場した昨年とは違った形で総文祭に関わることができてよかったです。大変なこともありましたが、準備も含めて楽しい総文祭でした!新聞部門委員 野村美詞(3M)

委員の3日間のスケジュール

1日目 8月1日(月)	
7:30	市ヶ谷駅集合
8:00	三輪田学園到着
9:00-12:00	生徒交流会・開会式・閉会式リハーサル
12:00-13:00	昼食
13:00-13:15	取材引率打ち合わせ
14:30-15:00	生徒交流会準備
15:00-16:00	生徒交流会練習(控室)
16:00-16:30	生徒交流会準備
16:30-17:30	生徒交流会
17:30-18:30	班別編集会議補助
18:40-19:00	打ち合わせ
19:00	解散
2日目 8月2日(火)	
7:30	市ヶ谷駅集合
8:00	三輪田学園到着
8:20-8:30	打ち合わせ
8:30-9:00	開会式準備、スピーチ練習
9:00-11:00	開会式出演、表彰式補助、講話(舞台裏で待機)
11:00-11:20	班別編集会議補助
11:20-11:40	昼食
12:10	三輪田学園出発
12:50	KITTE到着
13:00-14:00	IMT展示見学、インタビュー、KITTE内自由取材補助
14:00	KITTE出発
14:20	読売新聞東京本社到着
14:20-16:30	読売新聞東京本社見学
16:30	読売新聞東京本社出発
17:00	三輪田学園到着
17:00-18:30	班別編集会議補助
18:40-19:00	打ち合わせ
19:00	解散
3日目 8月3日(水)	
7:30	市ヶ谷駅集合
8:00	三輪田学園到着
8:30-9:00	閉会式リハーサル
9:00-10:00	班別編集会議補助
10:00-11:30	閉会式リハーサル
11:30-12:00	昼食
12:00-12:30	閉会式準備
12:30-14:30	生徒活動報告(ゆりーとの着替え補助)、交流新聞講評(舞台裏で待機)、閉会式出演
15:00-15:30	打ち合わせ
15:30	三輪田学園出発
16:00	新国立競技場到着
16:30-18:00	自由見学
18:10	新国立競技場出発
18:30	三輪田学園到着
18:30-19:00	反省会
19:00	解散

総文祭本番までの活動

とうきょう総文2022に向け、2020年1月14日(土)に新聞部門生徒委員会の募集が発表され、錦城高校新聞委員会編集部は参加を希望した。そして、東京都の大会で最優秀賞を獲得した錦城を筆頭に、都内の新聞部、委員会があるいくつかの高校の生徒で組織された。それから行われた会議は、新型コロナウイルスの影響で対面での会議が行えず、オンラインでの実施を余儀なくされた。今年に入り、新聞委員会編集部60回生2人もボランティアとして加わり、本格的に大会準備が始まった。錦城は、大会進行の核である生徒交流と開・閉会式の司会及び進行、運営を主に担当することとなり、受験勉強の合間を縫って話し合い、計画を立てて準備を進めた。大会当日も、直前まで入念なリハーサルを行い、大会運営を無事に成功させることができた。こうして、約1年半に及ぶ新聞部門委員会の仕事は終了した。(表)



オンライン会議の様子



開会式でスピーチをする実行委員長

開会式運営
2日目の午前、新聞部門開会式と年間紙面審査表彰式、講話が行われた。司会を務めたのは新聞部門委員 赤坂聖弥さん(3J)、野村美詞さん(3M)。新聞部門委員 赤坂聖弥さん(3J)による開会宣言で始まった開会式は、舞台転換が主な仕事となった。また、新聞部門委員 赤坂聖弥さん(3J)も歓迎の挨拶をした。続く表彰式では、受賞校の誘導や賞状・盾の授与をサポート。最後に講話がされ、開会式の式典は終了した。(廿)

班別編集会議補助
1日目の生徒交流会、2日目の開会式後と取材活動の後に各班に分かれて班別編集会議が行われた。参加生徒に向けて、紙面の作成方法や注意事項を説明した後、各班での紙面作成をサポート。生徒は話し合っただけで紙面の構成、班長、取材時の写真担当や質問事項を決定していく。取材後は自分の担当の記事を書いたり、写真を印刷したりして紙面作成を進める。初めは話が弾まなかった班も、時間が経つにつれて良い紙面を作ろうと盛り上がった。(表)



とうきょう総文2022の開会式に、東京都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」とかごしま総文の公式大会マスコットキャラクターの「かごまる」が登場した。ゆりーとになって舞台上に登場した山本葵さん(1H)は「とても暑い日だったので辛かったですが、滅多にできない経験をするのでよかった」と満足そうに顔をゆりーとの体験を振り返った。(紫)

閉会式
3日目の午後は、閉会式が行われた。鹿児島県との引き継ぎでは、東京・鹿児島両都府県の生徒委員が横断幕を持ち、また、大会マスコットキャラクターである東京都の「ゆりーと」と鹿児島県の「かごまる」がステージに入場し、会場は大きな盛り上がりを見せた。Tシャツ交換を行った後、東京都生徒委員長の藤生穂乃花さん(3J)がお礼の言葉を述べた。最後に、東京都生徒副委員長 赤坂聖弥さん(3C)が閉会宣言を行い、大会は終了した。(表)



新聞部門委員で集合写真

研修取材
閉会式終了後、千代田区にある国立競技場にて希望者による研修取材が実施された。生徒委員は引率、誘導、補助を行った。ここでは参加者を3グループに分けてグループごとに活動を行った。研修取材は50分間見学を行った後に担当者への質問会という流れで実施された。参加者は、客席はもろろん、トラックや選手ロッカーなどにも入り、見学することができた。(表)

OB・OGもボランティアとして参加

ボランティアとして運営をサポートした55回生の大石稜太郎さんに取材した。大石さんは錦城生時代に新聞委員会編集部として信州総文に参加している。ボランティアに参加した理由として「自分が参加した総文祭が東京で開催されるということで、信州総文で過ごした濃密な時間と同様に、参加者には楽しく有意義な時間を過ごしてほしいと思ったからです」と話す。最後に「大学生になっても総文祭に関わり、とても貴重な経験ができて楽しい思い出になりました」と感想を語った。同じくボランティアとして参加した、56回生の杉村千依さんは、大会本番について、東京の生徒も全国からきた生徒も、全員に活気があってとても楽しそうだったと話す。途中で、過去に自分がさが総文に出場したときのことを思い出し、懐かしく思ったそうだ。杉村さんは、全国から集まった壁新聞を1枚ずつ掲示する作業が最も大変だったという。作業の感想を「猛暑日での作業だったこともあり、開始早々汗だくになってしまいました」と話した。(甘・桜)



ボランティアスタッフが着用したポロシャツ